資料－６

第１回福井県流域環境ネットワーク協議会　議事概要

日時：平成 27 年 10 月 26 日（月）14：00～16：00
場所：越前市生涯学習センター４階　第１講義室

１　開会

あいさつ（福井県）
　田園生態系の頂点に立つコウノトリを自然再生のシンボルと位置づけ、自然再生に取り組んできた。今後は、これまで以上に自然環境の保全再生を推進するため流域全体の広がりとなるよう関係者が連携していきたい。

来賓あいさつ（越前市長）
　４０年前にこの越前市で保護されたコウノトリの子孫がもう一度この越前市にやってきて定着することで、命を大事にする街づくりにつなげていきたいと考えている。コウノトリが生活にとけこんだ地域となり、越前市のすばらしい自然にふれあいたい、と多くの人が訪れる街としていきたい。
　素晴らしい自然を次世代に引き継いでいくためにも、この協議会の活動に期待をしている。

２　協議会設立趣旨書（案）について

　事務局案に異議なし

３　委員あいさつ

（出席委員の紹介）

４　協議会規約（案）、協議会の構成について

　事務局案に異議なし

５　協議会公開方針（案）について

　事務局案に異議なし

６　委員長選出

　鷲谷委員が委員長に選出された。

７　委員長あいさつ

鷲谷委員
　コウノトリのような大型の水鳥をシンボルとした水辺の環境に関心をもっている。国や県の河川管理者がかかわることで、自然再生に対する体制が強化されることをうれしく思う。

副委員長選出
　福原委員が副委員長に選出された。

８　協議

（１）これまでの取り組みと今後の河川改修について
資料に基づき、事務局より説明

（２）意見交換
＜野坂委員＞
円山川について教えてもらいたい。塩水遡上についてであるが、塩分濃度を考慮しているのか。
＜鷲谷委員＞
塩分濃度の変化に耐える生物もいる。植生でいえばヨシが塩分に耐える。コウノトリについていえば、奄美大島で長期滞在している個体もおり、海の生き物を食べている。コウノトリは餌の幅が広い。
ただ、淡水でないと生息できない生き物で保全上重要な生き物がいる場合は配慮が必要である。環境に多様性がある湿地再生ができると意義がある。
＜事務局＞
田んぼとして利用している場所に水をためているので、他の田んぼと同じ状況である。
＜福原委員＞
塩水遡上については今後調査が必要。
＜青海委員＞
海水や汽水に適した生物もいる。塩水が田んぼの耕作に支障がなければ問題がないのではないか。
＜鷲谷委員＞
完全に予測して工事することは困難。多様な環境がモザイク状にあることは生物多様性をよみがえらせることにつながる。
＜福原委員＞
円山川の冬水田んぼは、川の近くにあるのか。
＜鷲谷委員＞
川から離れたところでも行われている。市から補助があるため、いろいろな地域で行われている。
＜青海委員＞
コウノトリが一日に食べる餌の量はどれくらいか。田んぼの面積はどれくらい必要になるのか。
＜事務局＞
１日４００グラムである。面積の試算はしていないが、コウノトリが野生で繁殖している豊岡市の福原地区は、個体数密度は約１０個体／㎡である。野田市等とも情報を共有し、定着に必要な餌量について検証していきたい。
＜鷲谷委員＞
餌になる生き物については、在来に生態系を重視する必要もある。越前市が在来のドジョウを養殖する活動を行っている。
＜石動委員＞
まだ研究段階であるが、市の直営の養殖場がある。また、休耕田を利用し、ドジョウの養殖に取り組んでいただいている方もいる。今はコウノトリの餌であるが、将来的には人が食べるドジョウの養殖につなげていきたい。
＜鷲谷委員＞
遺伝子レベルで調べて、その地域のドジョウを増やしている。他にはない進んだ取り組みである。
＜福原委員＞
水田魚道がある田んぼとない田んぼで、水田魚道設置の効果について検証はされているのか。
＜石動委員＞
検証を行っている。
＜事務局＞

三方五湖や北潟湖に設置した水田魚道でも効果検証をしており、魚の遡上を確認している。設置する水路の生き物の密度が重要。

＜福原委員＞

川と田んぼの連結を頭においておく必要がある。

＜青海委員＞

水田魚道があれば魚は遡上するが、水田魚道は設置後の管理も必要であり、費用がかかる。三方湖周辺では水路などで人工物にコイやフナに産卵させることに成功している。あまり負担がなくできる方法である。

＜鷲谷委員＞

三方五湖で検証されたことも活用していくのもいいのではないか。福井県にはそういった知見が蓄積されているという強みがある。

＜青海委員＞

生き物ぎょうさん里村との連携を考えているか。

＜鷲谷委員＞

里川連環部会で意見交換をするといいのではないか。

＜事務局＞

今後すすめていきたい。

＜福原委員＞

掘削する際には、どのくらいの頻度でどのくらい水につかるのか等水位計で測定し科学的な検証してもらいたい。

＜事務局＞

円山川も試行錯誤していると聞いている。円山川の情報を集め、修正をしながら工事を進めていくことが必要と考えている。

＜鷲谷委員＞

自然再生は順応的に取り組むのが鉄則。モニタリングを通してよりよい環境づくりを目指してもらいたい。

（３）今後の予定について

里川連環部会　部会構成員の選出を行う。

河道技術部会　部会構成員選出済み。部会立ち上げの準備を行う。

第２回の開催については、部会の開催状況により決定する。

９　その他

特になし

10　閉会

あいさつ（福井河川国道事務所長）

河川管理者と環境部局でこの会を運営し、治水と環境を両立させていきたい。これからは川の中だけでなく外とのネットワークを構築していきたい。

この協議会がコウノトリが舞う里づくりを進める起爆剤の一つとなればと考えている。